

琉球大学学術リポジトリ

年齢査定から明らかになったイリオモテヤマネコの生活史

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学21世紀COEプログラム 公開日: 2008-03-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中西, 希, 伊澤, 雅子, Nakanishi, Nozomi, Izawa, Masako メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/4989

PE-22 齢査定から明らかになったイリオモテヤマネコの生活史
(Life history of the Iriomote cat *Prionailurus bengalensis iriomotensis*
clarified by age determination)

中西 希・伊澤雅子 (Nozomi Nakanishi and Masako Izawa)

琉球大学・理学部

これまでの研究から、イリオモテヤマネコでは、メスは定住性が高く出生地付近に生涯行動圏を維持するが、オスは出生地から繁殖のための定住地を求め分散すること、またオスの中には、体サイズが大きく長期間同じ場所に行動圏を維持する定住個体と、定住地を求め移動し続ける放浪個体がいることなど空間配置の動態が明らかにされつつある。しかし個体の年齢情報が得られなかったため、繁殖開始齢や定住開始齢、寿命など、個体の繁殖成功度に関わる重要な情報は傍証からの推定で議論するしかなかった。そこで、本研究では本種の絶対年齢を知るために犬歯セメント質年輪を用いて死体の齢査定を行い、野外追跡から得られた個体の動きにこの年齢情報を付加することによって、本種の生活史を解明することを目的とした。

59 個体 (♂29、♀17、不明 13) の犬歯セメント質年輪を数えることによって年齢査定を行った。乳歯から永久歯への歯牙交換状態及び永久歯の年輪数と下顎骨長の関係から、イリオモテヤマネコは 1 本目の年輪が形成される 2 歳までは雌雄間にあまり大きなサイズ差はみられず、共に直線的な成長を示した。しかし犬歯根尖孔が閉鎖する 1 歳半から 2 歳にかけてオスはメスより急激に成長することによって体サイズの性的二型が現れ、2 歳以降成長は頭うちになった。メスの年齢と出産経験の有無を確認した結果、0~1 歳に経産個体はいなかった。2 歳では 4 個体中 1 個体が経産であり、3 歳では 4 個体中全てが経産個体であった。一方、定住開始時期が確認されていた定住オス 6 個体の定住開始齢は平均 3.5 歳であったが、1 歳から 7 歳と大きな幅が見られた。また、放浪中のオスの年齢も 0 歳から 7 歳と大きな幅が見られた。放浪オスの中で 0 歳から追跡された 2 個体は、共に 2 年目の冬 (約 1.5 歳) にそれまでの行動圏を拡大させた。自然死と考えられた 14 個体 (♂3、♀6、不明 5) から求めた平均寿命は 6.1 ± 3.1 歳 [0(♀)–13(♀)] だった。

2 歳のメスの一部が経産であったことからメスは 2 歳から生理的に出産可能であることになり、1 歳の冬には性成熟に達し交尾に参加すると考えられる。また、オスも 1 歳の冬から出生地からの分散を開始する傾向がみられた。このオスメスの繁殖参加開始時期が成長が止まる時期と一致することから、イリオモテヤマネコでは 2 歳以上が繁殖に参加する成獣であるといえる。しかし、オスの定住開始齢や放浪個体の齢にはばらつきがあり、繁殖相手となるメスを確実に獲得できる定住開始には年齢以外の要因が大きく関わっていると考えられた。定住性の高いメスで 3 歳以上に未経産個体がいなかったことから、社会的繁殖開始齢はメスよりもオスで個体間に大きな差ができることが考えられた。今後、犬歯セメント質年輪数と歯の磨耗度にみられた関係から生体についての齢査定法を確立することにより、より詳細な生活史の解明をめざす。